

今月の論語

終わりを慎み
遠きを追う

年とった親をよくお世話して
遠い祖先の恩を忘れぬ。

今月の帰宅放送は、東原庁舎中央校9年 山口 智基さんです

野の仏ギャラリー②
観世音菩薩坐像

東多久町納所



多久市郷土資料館長 藤井 伸幸

大きな蓮華台に載り、結跏趺坐しています。ふくよかな顔立ちで、眉間に白毫が刻まれ、頭上に装飾付きの宝冠を戴いています。足の上で、左手の上に右手を載せ、蓮華を持っています。伝統的な作風で、気品のある姿です。銘「南無観世音菩薩」「大願主 古賀幸右衛門宗信 享保十五庚戌正月十七日」 ※他に七言絶句等の銘文があります

○菩薩は悟りを開く前の修行中の者を称します
○跏趺は両足の甲を重ねる(組む)の意味です
○銘の享保十五庚戌は西暦1730年です

教育長コラム

ちよっとい話



「おっちゃん」

管理職時代にお世話になった地域で、自称「若い頃やんちゃだった」Yさん。筋を通す生き様が格好良かった。子どもたちのために労力を惜しまず、よく協力していただいたものだ。

ある日、自宅窓から「草むらで喫煙する数名の中学生」をみかけたYさん。学校にも一報をいれたが、偶然通りかかったように装って自らも出向いた。慌てた中学生に、「おっちゃんは背の高い人になりたかった、ばつてん駄目だった。体の小っちゃかろうが。なしてて思うか?」「...」お前たちの頃からタバコば吸ったけんぞ。残念なことばした...」校内での指導とは違った視点で、地域のおっちゃんだからこそできる青少年の心がざわつく指導だった。

教育長 田原 優子

市民文芸

ひとりきり今日も明日も一人きり
独り居の友念ひ眠りぬ 浦野 嘉恵

ありがとう口癖だった母の事
誇りに思う今でもずっと 野崎 隆幸

新緑の影さす厨に水使う
楽しき季節の又めぐり来ぬ 川浪 信子

朝まだき身のひきしまる外へ出て
初なりの茄子で味噌汁を作る 梶原恵美子

まだ生さる私のために求めたる
和室のソファ座りよきかな 尾形 節子

葉桜の木漏れ日の影鎮まらず
太閤も越へし里道木下闇 倉成 皓二

亡き父母のこゑ聞こえる麦の秋
復興の三連水車揚雲雀 中嶋 清子

夏落葉朝掃きたるに夕も降り
復興の三連水車揚雲雀 大石ひろ女

夏落葉朝掃きたるに夕も降り
復興の三連水車揚雲雀 武富 律子

ばあちゃんは笑顔を足して化粧する
介護してされる時代に順送り 井上 東子

母さんの指から学ぶふつだんご
いつ読むの積んだ本から 古賀 弘子

会話なしラインでつながる
田中久美子

川柳 《多久川柳会 互選》

俳句 《互選》

短歌 《麦の芽短歌会 互選》